

ビジョン策定の背景と目的

本地区は、1980年以前に建築された築40年以上の建物も多く、低未利用地もあり、既存建物や土地の更新時期を迎えていくことが想定されます。こうした機会を捉え、本地区の未来を見据えたビジョンを策定し、より一層魅力的で活気ある地区として発展させていくことを目指します。



ビジョン対象範囲

ビジョン対象範囲を以下のように定めます。



第4章 地区の将来像とまちづくりの方向性

■地区の将来像

地区の歴史や特性などを踏まえ、将来像を定め、その実現に向けた6つのまちづくりの方向性を設定しました。

地区の将来像

「港町の歴史、美しい海や緑、新たな魅力とにぎわいが織りなす
水際線のまちづくりにより、世界の人々を魅了するまち」

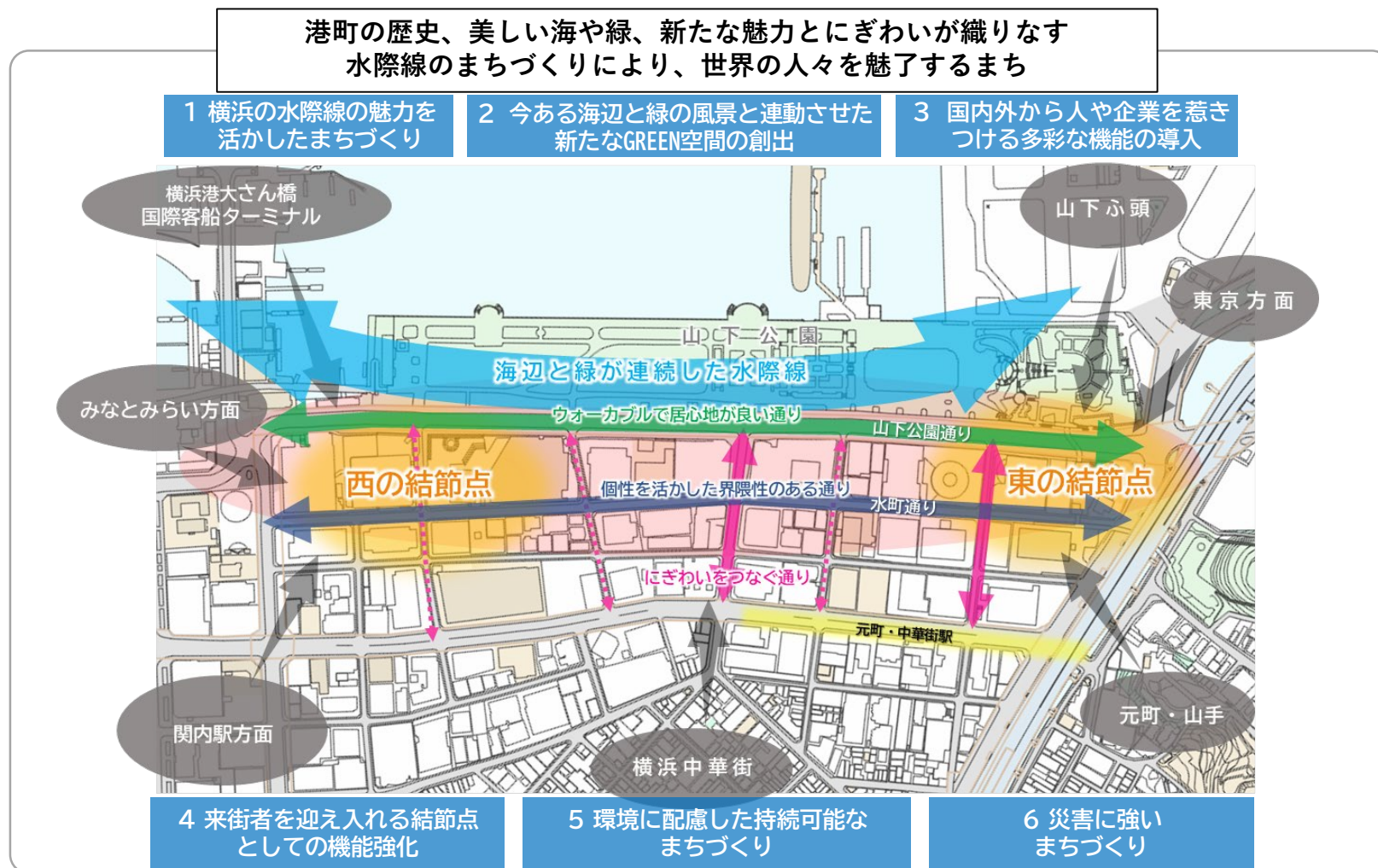
まちづくりの方向性

- 1 横浜の水際線の魅力を活かしたまちづくり
- 2 今ある海辺と緑の風景と連動させた新たなGREEN空間の創出
- 3 国内外から人や企業を惹きつける多彩な機能の導入
- 4 来街者を迎え入れる結節点としての機能強化
- 5 環境に配慮した持続可能なまちづくり
- 6 災害に強いまちづくり

第5章 まちづくりの実現に向けて

■まちの概念図

地区の将来像とまちづくりの方向性を踏まえて、まちの概念図を次のとおり示します。



第5章 まちづくりの実現に向けて

■にぎわい軸の形成

周辺のまちづくりやインフラ更新の機会を捉えて、通りの特性を活かしながら軸線の強化を図ります。

【山下公園通り】



ウォーカブルで居心地が良い通り

【水町通り】



個性を活かした界隈性のある通り

【水際線とまちなかをつなぐ縦軸】



にぎわいをつなぐ通り



回遊を補完する通り

■水際線をつなぐ西と東の結節点の機能強化

来街者を迎え入れる玄関口としてふさわしい都市機能や交通乗降機能を充実させるなど、結節点としての機能強化を検討していきます。

今後、地区内のまちづくり検討の深度化に合わせて、施設の複合化や共同化も含めた事業手法等の検討を進めていきます。